

平成 19 年度第 1 回ワークショップ

日 時 平成 20 年 1 月 30 日 (水)

場 所 浜頓別町役場大会議室

テーマ：『グリーン・ツーリズムへの理解を高めていくためのワークショップ』

浜頓別町グリーン・ツーリズム推進協議会のこれまでの活動について

設立から 1 年を経過し、これまでの活動について、スライドを使い写真を見ながら振り返った。

講演 『地域資源を活用した特産品の開発と P R』

～ 浜頓ホテル 大野充博氏



(内 容)

地元のものが地元で買えない、地元で採れるものが地元で食べられない、新鮮でおいしい牛乳があるのに法律の関係で加工して提供することが簡単にはできないということに歯がゆい思いをしてきた。

これまで「ホタテシュウマイ」や「ホタテのミミの三升漬け」「鮭まんじゅう」などを開発してきたが、これらの材料（ホタテの卵やミミ、鮭の中落ち）は、以前は捨てられていたものである。これらの材料は、今では販売されるようになっており、地域の産物が商品としての価値を得たことにうれしさを感じている。地元の産物やサービスを適正価格で取引ができるよう努力したいものである。

地元の牛乳を使った牛乳プリンの開発を企画し、乳業メーカーやホクレンなどに牛乳の使用について相談をしたが、その際に乳製品の製造販売が簡単にはできないことを知り、改めて「地元で搾った牛乳を地元の人が利用できない」現実に直面した。

いろいろと探る中、地元のチーズ工房を経営する酪農家から、チーズを作る過程の力

ードという状態のものであればチーズとして出荷できるという話を聞き、協力を依頼して現在のチーズブリンのレシピを作り上げた。これをパッケージングして販売するには菓子製造許可が必要なため、衛生管理の問題その他を考え「学校給食を手がけていること」「小ロットにできること」「持ち込んだ材料で作成してくれること」「試作品製造にお金を取らないこと」の条件で対応してくれる会社を探し、製造を委託した。その後も賞味期限のことなどいろいろあったが、とにかく一番苦労したことは許認可の問題であった。

修学旅行生の受入ですっかり有名になった長沼町を何回か訪問し、話を聞いたことがある。1泊8,000円程度で受け入れており、1戸あたりの売り上げが多い時で8~10万円になる。宿泊料や体験料等の短期的な経済効果だけでなく、訪れた子どもたちが地元に戻って話をするにより多くの人に長沼町を知ってもらえるなど目に見えない宣伝効果がある。子どもたちから話を聞いた親が、同町の農家と農産物の直接取引を始めたケースもあるとのことである。

グリーン・ツーリズム推進協議会に対しては、体験観光マップを配布した後のサービスについて課題がある。ここに行けばこういうことをやっているということはわかるが、連絡をすると外出中のこともあったりする。営業状況などの情報をリアルタイムにわかるようにしたほうが良いと思うがそういったコーディネート役はだれがどのようにやるのか。ふらっと訪れたお客さんがパンフレットを手にとり興味を持ったところから対応ができるようにする必要があるのではないかと。

この講演を受け、会員それぞれの思いや現状も含めながら意見交換を行いました。

情報提供 『子ども農山漁村交流プロジェクト』

～ 宗谷支庁農務課 坂井主査



国が平成20年度から24年度にかけて実施する『子ども農山漁村交流プロジェクト』について、情報提供をいただいた。

プロジェクトの概要

全国120万人の小学生すべてが農山漁村への長期宿泊体験ができるようH20～H24の5年間で体制を整備する事業で、総務省・文部科学省・農林水産省の3省連携により各種支援が行われる。平成20年度は、モデル地区として全国40地区、推進校470校を選定して長期宿泊体験活動を展開していく。その後モデル地区で得られたノウハウを参考に小学生100人規模での受入が可能な地域を全国で500地域に拡大していく。

プロジェクトの目的

農山漁村における体験や交流を通じ、従前は家庭や地域で行われてきたこと（社会生活のルールなど）を学ぶ。

各省の支援

総務省：地方単独事業を行う場合の支援や地財措置等、受入地域への支援を行う。

文科省：宿泊体験に係る学校への支援。

農林水産省：受け入れ体制整備のためのソフト支援や受入拠点施設の設備など地域の受入体制整備への支援

モデル事業参加の条件

- ・小学生100人規模の受入が可能であること
- ・年間を通じて受入可能であること
- ・年間を通じて5校以上受入が可能であること
- ・雨天時においても行える体験があること 他